

たより

〒037-0305
青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山540-8
【仮庁舎 令和3年3月まで】
〒037-0202
青森県五所川原市金木町芦野200-498
TEL : 0173-53-3848 FAX : 0173-54-2102
E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

東北森林管理局技術開発委員会の開催について

令和元年12月5日(木)東北森林管理局において、令和元年度東北森林管理局技術開発委員会が開催されました。

この委員会は森林技術・支援センターなどが取り組んでいる技術開発課題の進捗状況や今後の方向性について、学識経験者、指導林家など外部の委員を交え審議するもので、当センターからは1つの中間課題、5つの経常課題及び1つの新規課題について報告を行いました。

今回は経常課題として報告した『2条3条植栽による下刈の省力と多様な森づくり』について紹介します。

①取り組んだ背景

人工林の多くが本格的な利用・更新期を迎えており、造林初期コスト(植栽・保育)の低減を図るため、従来方形植えで実施していた低密度植栽を2条植え、3条植えとし、植栽試験を行うこととしました。

また、下刈を実施しない区域を設定し、ぼう芽力等を活用した天然更新により広葉樹と人工林をモザイク的に配置した針広混交林を造成することを目的とし取り組んでいます。

②調査概要

本試験は岩手県岩手町の四日市山国有林(盛岡森林管理署管内)において下記について調査を実施しています。

1. 2条・3条・方形植えによる成長の比較

カラマツコンテナ苗を植栽し、各区画を設定の上、活着率・生長量の比較を行います。

2. 多条植栽による下刈面積の削減及び広葉樹の活用

下刈区及び無下刈区を区分し下刈面積を削減させます。また、無下刈区には広葉樹のぼう芽更新を行うことにしました。

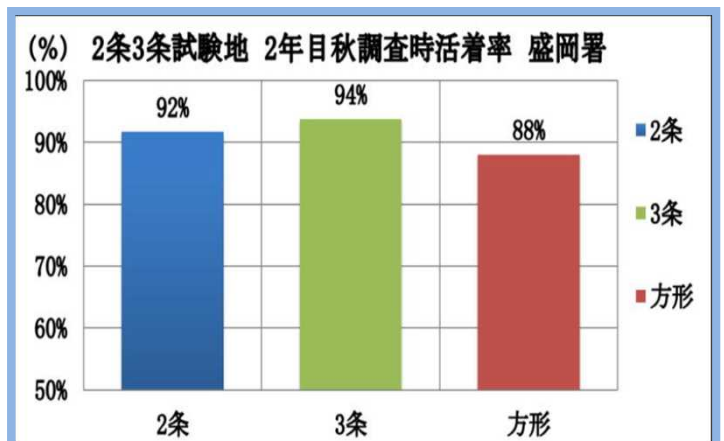
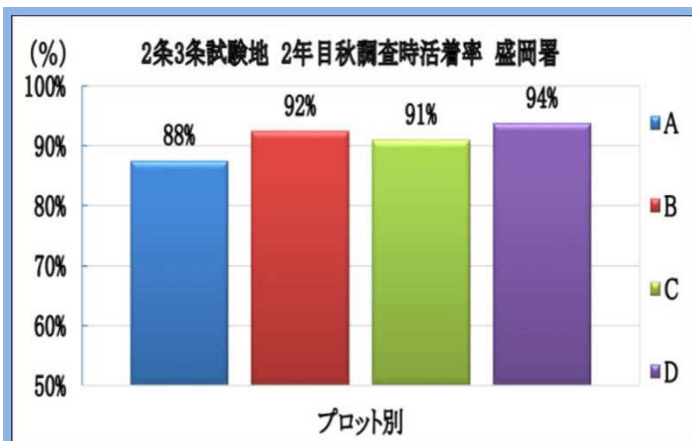
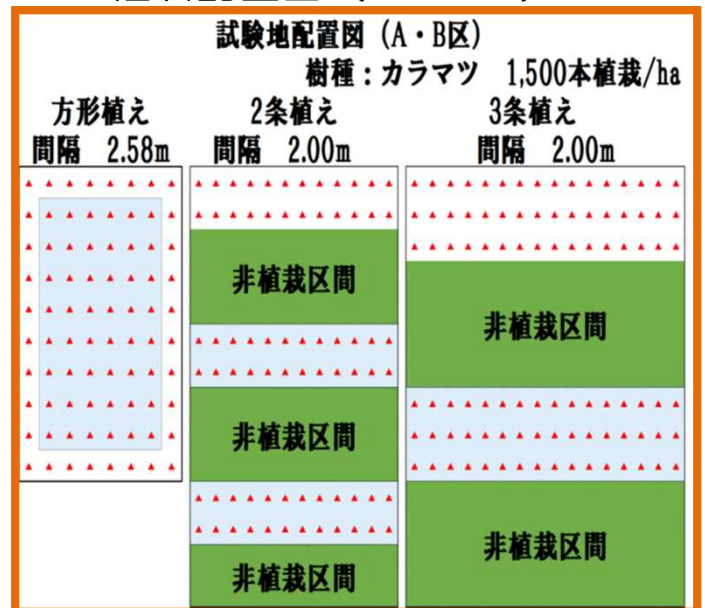
③これまでの調査結果と経過

調査した途中経過について、お知らせします。

1. 活着率

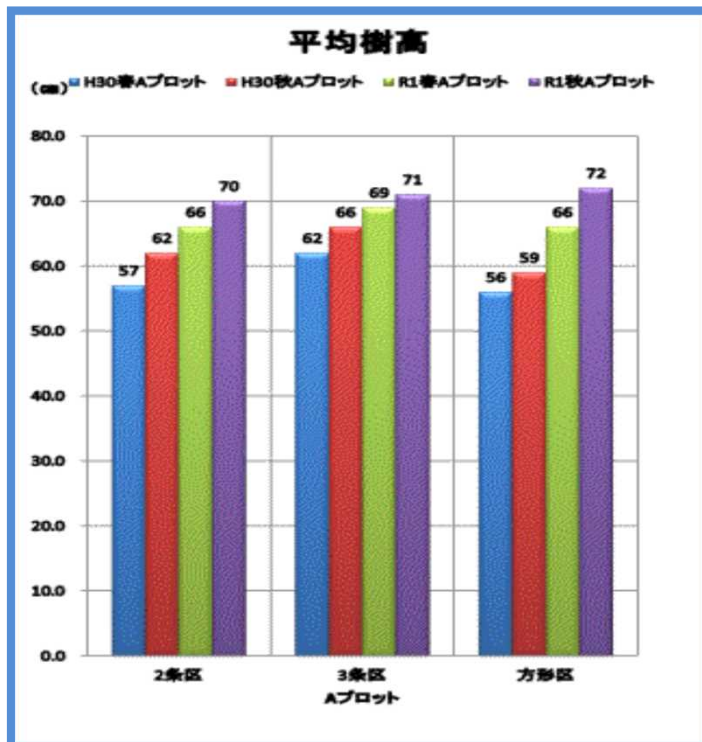
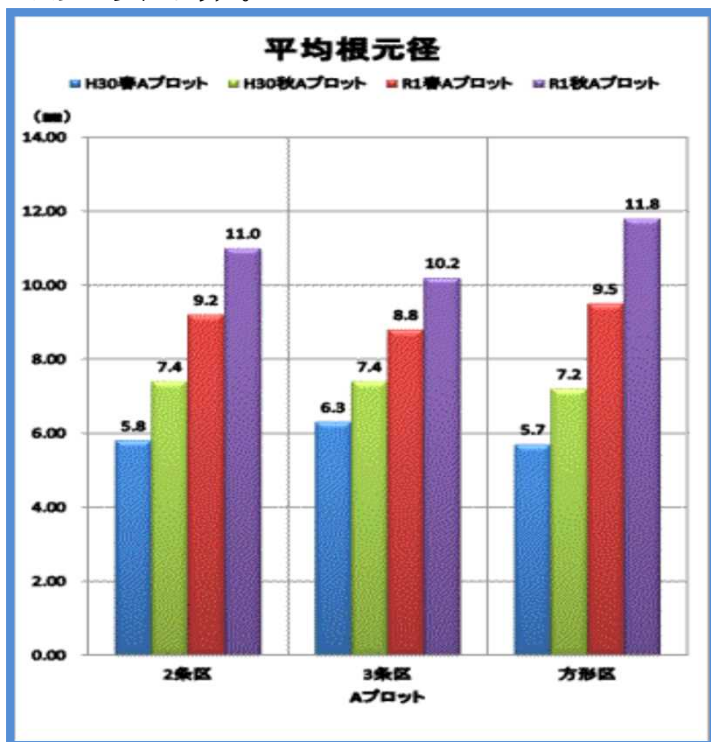
2年目秋時点(令和元年10月調査時)の活着率はプロット別で88%~94%になっており、2条・3条・方形植え別でも85%を超えています。

植栽配置図(A・B区)



2. 成長量

平成30年度・令和元年度分の2カ年の調査結果のみですが、どのプロットも同じような成長量となっており現時点では大きな違いは見られません。3年目以降の成長推移を引き続き観察していくことにしています（データはAプロットのみ）。



今後の展望

本試験については、次年度で3年目ですが調査を継続し、方形植え・2条植え・3条植えのデータを積み重ねるとともに、下刈区・無下刈区を設定していることから下刈の有無により広葉樹の侵入の違いも予想されますので、今後も成果等を紹介していきたいと考えています。

【森林技術普及専門官 堀川】

さえすり



青山です!



業務係
青山 岳彦

強風の翌日、近所のため池を散歩していたところ、水際にトゲトゲしたのを見つけました。オニビシの実です。よく観察してみると、とても特徴的な形をしています。この実は忍者が使う「まきびし」のモデルとされ、棘の先には逆針がついています。これが水鳥の羽毛に絡みつき、長距離を移動するための手段になります。小さな種子に工夫がいっぱい詰まっています。みなさんも、踏まないように気を付けて、観察してみてください。



林野庁東北森林管理局における基礎研修

【業務係 青山】

当局では森林・林業に関する様々な知識や技術の習得を目的とした研修を実施しています。令和元年12月4日に新規採用者を対象に24名参加のもと基礎研修を局内で実施しました。その研修で当センターから技術開発の講義を行いました。

講義内容は、①当センターの概要、②技術開発、③民有林への普及・支援について説明しました。技術開発では、コンテナ苗について容器、植栽器具、苗の基礎的内容を説明しました。

また、令和2年度新規課題の「カラマツさし木コンテナ苗による植栽試験」について説明し、参加者は興味深く聞いていました。

当センターでは今後も研修等の機会を通じて、職員の森林に対する基礎力の向上、技術開発の普及をすすめていきたいと思っております。



編集後記

今年も関係各位の皆様お世話になりました。年明け1月末には「森林・林業技術交流発表会」が開催され、当センターからは青山さんが発表します。新しい年に向け、皆様体調管理に気をつけて下さい。

